

粒子・流体プロセス部会ニュースレター(第3号)

2009年7月6日発行

(社)化学工学会 粒子・流体プロセス部会

部会長より

粒子・流体プロセス部会の皆様こんにちは。100年にいちどの大不況といわれる激動の時代の中でも、基礎的な人類の活動である、次世代の人材育成、研究・開発を止めることはできません。皆様も、学習・教育、研究、技術開発と、それぞれのお立場で励まれていることと思います。

粒子・流体プロセス部会は、活発な分科会活動や、部会共通のセミナー、各種表彰、ニュースレターの発行を行っている化学工学会の各種部会の中の最大の部会です。化学工学におけるきわめて重要な分野を守備している本部会は、部会員各位のさまざまなニーズにこたえ、わが国の粒子・流体プロセス工学研究教育および開発や学術活動をリードするとともに、グローバル時代にふさわしい国際的な力を持ったグループに発展していかなければなりません。そのために、ホームページの英文化、部会共通企画の強化などを進めています。特に今年は、下図のように秋季大会で動画プレゼンを含む部会横断セッションを試験的に設けました。皆様多数のご参加を期待します。また、表彰についても、各賞の授与式および記念講演を年会の総会の場で同時に行うことにいたしました。分科会の活発な独自活動を支援しつつ、横断的な活動も強化し、複雑な現場の課題に応えられるタフな研究者・技術者やその卵たちが集う場を作り上げていくことができればと思います。

会場	H	E	G	F	I	C
9/16	9:20 熱物質	9:20 気液固分散	13:00 流動層	9:00 粉体	9:20 ミキシング	
9/17		9:00 気液固分散		9:00 粉体		13:00 部会横断
9/18						9:00 部会横断

(部会長・堀尾正韜)

2008年度部会総会報告

2009年3月19日に横浜国立大学にて開催さ

れた第74年会化学工学会C会場にて2008年度部会総会が開催されました。参加者は19名でした。総会では次の議題が審議されました。

- ・分科会代表、副代表の交代について
- ・気泡塔分科会の改組について
- ・部会規約、分科会運営細則の改正について
- ・平成20年度決算報告
- ・平成21年度の活動計画
- ・今後の予算執行について(繰越金)
- ・映像賞(仮称)について
- ・部会セミナーについて
- ・部会の継続申請について
- ・受賞記念講演の開催日について

また、次の報告がありました。

- ・部会賞(シンポジウム賞、技術賞、フロンティア賞)受賞者名の発表
- ・平成20年度の活動報告(部会、分科会)

総会の資料ならびに議事録は部会ホームページ(<http://www2.scej.org/partluid/index.html>)の会議議事録のリンクからご覧になれます。



(事務局・甲斐敬美・中里勉)

2008年度粒子・流体プロセス部会フロンティア賞選考について

2008年度のフロンティア賞は、下記の論文に決定しました。受賞者には、改めて祝意を表します。受賞論文題目:圧力振動脱泡における

shear-thinning流体中の気泡近傍流れの可視化

論文名:化学工学論文集、34(4)、417-423(008)

著者:岩田修一、山田悠介、小森翔悟、森秀樹
同賞は、手法やプロセスなどで特に優れたオリジナル論文に対して表彰し、その栄誉を讃えるとしております。同賞の趣旨と重みを考慮した選考にしなければならず、審査(選考)は厳正かつ公正に行いました。以下には、審査経過を公表・報告いたします。

2008年度の推薦論文数は1件でした。規定に基づき、部会長からの指名により審査委員を選出する必要があり、審査委員候補者として、部会を

構成する5分科会よりの代表者+主査といたしました(部会長承認)。審査委員には、推薦論文(1件)が本賞に相応しいかの絶対評価をいただくことにし、推薦書と推薦論文を持ち回りで厳正に審査いただきました。なお、分科会代表が推薦者になっていたため、公正を期すため別の方をご推薦いただきました。2008年度の同賞の審査委員は以下の方々でした。

フロンティア賞審査委員(順不同、敬称略)

空閑良寿(粉体プロセス分科会)

安田啓司(気泡塔分科会)

今野幹男(ミキシング技術分科会)

鈴木 洋(熱物質流体工学分科会)

堀尾正靱(部会長・流動層分科会)

齋藤文良(主査)

各審査委員より審査結果を2009年1月末までに回答いただいた結果、上記の論文は、フロンティア賞に相応しいとの判定をいただきました。

以上が、昨年度のフロンティア賞申請と審査経過・結果の御報告です。

(フロンティア賞選考委員長・齋藤文良)

2008年度粒子・流体プロセス部会技術賞 選考について

2008年度粒子流体プロセス部会技術賞推薦募集には計4件の応募があり、各分科会から推薦された5名からなる選考委員会を組織し、評価結果を担当幹事がまとめ、「通気量がきわめて多い通気攪拌技術の開発と工業化」を本年度技術賞として部会長に推薦しました。

なお、候補の内の1件はフロンティア賞向きであったが、他の2件はいずれも高い評価を得た。ただし、複数受賞(内規)には達しておらず、本年度の推薦は1件のみとしました。選考理由は以下の通りです。

本業績の気液混合技術は、従来の手法とは異なり、攪拌翼からの液流動と気体の吹込みの衝突による気体の微細化と、傾斜パドル up・pumping 翼の採用により、従来では考えられなかった極めて多い通気量の通気攪拌操作を可能とした点に新規性・有用性が認められた。また、約 150kg/hr の研究プラントでの4年間に渡る連続生産実績を重ねた後、約 3000kg/hr の商業生産プラントにスケールアップも行われ、新規性や実用化の観点から技術賞として適当であると判断された。

(技術賞選考委員長・幡野博之)

2008年度粒子・流体プロセス部会賞表彰式

2009年3月19日に横浜国立大学にて開催された第74年会化学工学会C会場にて表彰式と記念講演会が執り行われました。

シンポジウム賞(奨励賞)

受賞者:住友化学(株) 斉木理奈氏

シンポジウム名:S-4 気-液、液-液、気-液-固、気-液-液分散系プロセスのイノベーション J209

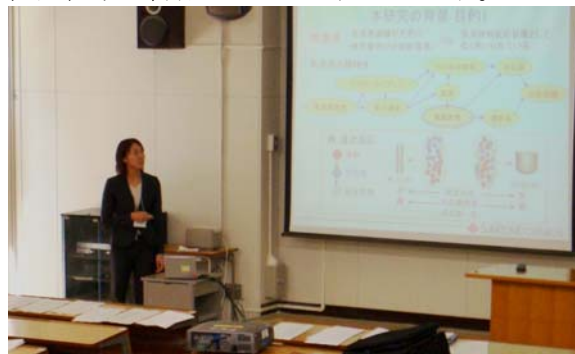
受賞研究名:気泡塔内液混合性の数値予測および検証実験



この度は、粒子・流体プロセス部会シンポジウム賞(奨励賞)を頂き、誠にありがとうございます。部会・分科会関係者、選考委員の皆様には厚く感謝申し上げます。

今回受賞した発表は「気泡塔内液混合性の数値予測および検証実験」です。私たちは、気泡塔内の数値解析手法を開発しています。今回は、気泡塔内の一評価手法として液混合性に着目し、実験と比較することで、気泡塔内二相乱流モデルの評価および改良を行い、数値解析の精度向上を図りました。本研究が、今後の塔開発指針の一助となれば幸いです。

まだまだ若輩者で至らぬ点も多いかと思いますが、今回の賞を励みとして今後も研究に邁進していく所存ですので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。最後に、ご指導頂いている神戸大学富山先生、京都大学小森先生、ならびに住友化学の皆様には心より感謝いたします。



(住友化学(株)・斉木理奈)

フロンティア賞

受賞者：名古屋工業大学大学院工学研究科物質工学専攻 岩田修一氏、山田悠介氏、小森翔悟氏、森秀樹氏

受賞研究名：圧力振動脱泡における Shear-Thinning 性流体中の気泡近傍流れの可視化



この度は、栄ある化学工学会粒子流体部会のフロンティア賞を頂き、誠にありがとうございます。これも多数の部会・分科会関係者、選考委員の皆様のおかげと感謝しております。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

今回受賞した論文は、「圧力振動脱泡における Shear-thinning 性流体中の気泡近傍流れの可視化」です。

私たちは、高分子流体中に停滞する気泡の脱泡を目的として、容器外部から低周波圧力変動を印加する操作により、気泡近傍に局所流れを発生させ、気泡離脱速度を促進させるという“圧力振動脱泡法”を開発しております。

特に Shear-thinning 性流体に対して有効であることは実験的に示されておりますが、そのメカニズムの詳細は十分に解明されておられません。

本論文では、300Hz で膨張収縮する高々直径 1mm 程度という気泡の近傍流れを、顔料系インクにより可視化することで、気泡近傍で膨張収縮に起因した強い剪断流れが存在することが示されました。また、気液の置換流れによる気泡上昇運動が現象を支配することが明白になり、メカニズムの解明に大きな一助を与えました。

圧力振動脱泡法は、既存の脱泡方法と原理が全く異なる方法であり、技術的難易度も高かったですが、独特な方法で課題を解決することで、本受賞をいただけるような成果が出せたと思います。

本方法は、従来の方法と比較して高分子材料を劣化させることなく、シンプルな装置構造と少ないエネルギー消費でより効果的に脱泡できる特長があります。今後、実用化に向け、さらに研究を進めていき、分科会等を通じて皆様の発展の一助とな

れば幸いです。

最後に、本研究に多大なるご協力をいただいた、(独)科学技術振興機構(JST)と(財)市原国際奨学財団、ならびに大学の関係各位に深く感謝いたします。

(名工大・岩田修一)

技術賞

受賞者：ライオン(株)プロセス開発研究所 西尾拓氏、山形大学工学部物質化学工学科 高橋幸司氏

受賞研究名：通気量がきわめて多い通気攪拌技術の開発と工業化



このたび技術賞という名誉な賞をいただき誠に有難うございます。本研究は、山形大学 高橋幸司先生に御指導いただいた社会人博士課程の中で得られた研究成果であり、この場をかりて感謝申し上げます。

本技術は、従来の通気攪拌操作では考えられない通気量がきわめて多い気液分散を可能にした技術開発であり、従来方式から着眼点を変更し、攪拌翼からの液流動と気体の吹込みの衝突により気体を微細化・分散することで達成することができました。本技術は、大量の希釈ガスを用いた反応のマイルド化以外に高い酸素移動を要求するバイオリクターへの応用などにも期待できます。

(ライオン・西尾拓)

2009 年度粒子・流体プロセス部会フロンティア賞の募集について

本年度(2009年度)も募集いたします。対象論文は2008年10月～2009年9月までに掲載の化学工学論文集、JCEJ誌など(それ以外でも化学工学的論文であれば推薦可)です。自薦、他薦は問いません。推薦締切は2009年10月9日(金)です。詳細は部会HPを参照願います。奮ってのご推薦をお願いいたします。

(フロンティア賞選考委員長・齊藤文良)

**粒子・流体プロセス技術コース 2009
参加者募集のご案内**

本年度から東京高専で流動と伝熱実習を開始しました。詳細は以下のホームページでご確認下さい。

<http://staff.aist.go.jp/h.hatano/fbtc/fbtcTopPageL.html>

概要

本コース 8/26～27+サテライト実習と追加実習
本技術コースは流動層技術コースとして1987年に産声を上げ北海道工業開発試験所が中心となって講義と実習の2本立てで2005年まで実施してきましたが、諸事情により2006年から、産総研つくば西事業所(旧資源環境技術総合研究所)に移転しました。移転に合わせて主催を化学工学会粒子・流体プロセス部会の流動層分科会に、名称も「粒子・流体プロセス技術コース+西暦」に変更しました。さらに、2008年からは、サテライト実習コースを設け、今年は鹿児島大学、九州工業大学、静岡大学、新潟大学の4つで実施します。2009年からは本体実習コースを産総研コースと東京高専コースに分け、校舎は流動や伝熱など化学工学の基礎を実習で学べるようにしました。部会員の皆様で企業の方を対象にした実習が可能な場合は手を挙げて頂ければ参加出来ますので、担当者までご相談下さい。今年の技術コースは以下に示すような内容で実施しますが、詳細と最新情報につきましては上記ホームページからご確認下さい。

日程

- 8/26(水) 講義 産総研臨海副都心センター
- 8/27(木) 産総研実習・東京高専実習
- 8/28(金): 追加実習 産総研
- 10/8(木): 10月実習 産総研

8/26 講義 13:00-19:00

「水平移動層を用いたプラスチック類の液化・ガス化」産総研 小寺 洋一氏

「気流層二室二段反応器による石炭ガス化・熱分解技術(ECOPRO)」新日本製鐵 小水流 広行氏

「微粉系流動層の基礎」鹿児島大学 甲斐 敬美氏

「DEMを用いた流動層シミュレーション」アールフロー 竹田 宏氏

個別質問コーナー 参加講師と産総研職員

8/27 実習

・産総研コース

- ①石炭燃焼
- ②流動層基礎
- ③DEMによる流動層シミュレーション
- ④機械的粒子複合化

- ⑤ケイ酸塩ナノ粒子合成
- ・東京高専コース
 - ①流動の基礎(円管内の圧力損失測定)
 - ②伝熱(二重管式熱交換器)
 - ③二次元流動層の層内圧力損失測定
- ・追加実習

8/28 午前 循環流動層 午後 流動層基礎

10/8 午前 高温流動層 午後 循環流動層

・サテライト実習 日程は本コース以降、鹿児島大学、九州工業大学、静岡大学、新潟大学の担当教員と実習生のスケジュール調整により実施します。

(産総研・幡野博之)

**化学工学会関東支部第 39 回 Continuing Education シリーズ講習会
「事例から見る重合プロセス開発の最先端**

主催:化学工学会関東支部

日時:2008年12月1日(月)10:00~18:30 講演会、技術交流会

Continuing Education シリーズ講習会は企業で働くケミカルエンジニアの皆さんのリフレッシュを目的として時代の流れを反映した分野を取り上げ、大学、企業の技術者研究者を講師として招き、毎年開催しております。

昨年度は重合プロセス開発の最先端技術について大阪市立大学圓藤紀代司教授に概説していただき、その後、企業における開発事例について6社から技術者をお招きしてご講演いただきました。プロセス開発戦略、触媒開発など多岐にわたる講演があり、粒子・流体プロセス部会の会員の方々を含む多くの方々にご参加いただいて、有意義な情報交換の場を提供することができたものと考えております。

(関東支部第一企画委員長・部会企画幹事・吉川史郎)

**平成 20 年度粒子・流体プロセス部会セミナー
「粒子・流体プロセス技術の将来展望」**

主催:化学工学会 粒子・流体プロセス部会

日時:2009年1月28日(水)

講演会:9時30分~17時

懇親会:17時15分~19時

会場:東京工業大学百年記念会館フェライト会議室

プログラム

部会長挨拶

部会長 東京農工大学名誉教授 堀尾正毅氏

1. 自分自身のメガネを持つ
東京工業大学 小川浩平氏
(ミキシング技術分科会)
2. 粉体流れの不思議とその賢い利用
同志社大学 日高重助氏
(粉体プロセス分科会)
3. 高炉内粒子群流動の観測と流れの制御、偏析挙動、CO₂削減や銑鉄品質の向上
新日本製鐵(株) 松崎眞六氏
(粉体プロセス分科会)
4. シミュレーションを活用した気泡塔設計支援のコツ～失敗を回避するために～
住友化学(株) 島田直樹氏
(気泡塔分科会)
5. スラリー気泡塔および気-液-固流動層における熱・物質移動の相関
関西大学 室山勝彦氏
(気泡塔分科会)
6. 附着性微粒子及びナノ粒子の粒子・流体プロセス工学—ナノテクノロジーから地球環境問題まで幅広く展開する微粒子・流体プロセス—
東京農工大学 神谷秀博氏
(流動層分科会)
7. 燃焼排ガス処理の過去・現在・未来
岐阜大学 守富寛氏
(粉体プロセス分科会)
8. ミキシング技術強化の視点
大阪大学名誉教授 平田雄志氏
(ミキシング技術分科会)

部会セミナーは分科会の枠を超えて粒子・流体プロセスに関する諸問題について議論する場として2005年度より毎年開催されています。2007年度までの3回はいずれも「現象のシミュレーション解析と装置開発・プロセス操作への応用」のタイトルで、数値シミュレーションをテーマとしてきました。今回は趣向を変え、部会を構成する分科会のうち分野が全分科会にかかわる熱物質流体工学分科会以外の4分科会から講師を2名ずつ推薦していただき、8件の講演をプログラムしました。各分科会のセミナー、シンポジウムではなかなか意見を交わすことのない参加者、講師の間の活発なディスカッションがあり、部会横断的なセミナーとして有意義なものになりました。本年度も秋に開催すべく準備を進めておりますので、ご協力よろしく願いいたします。

(部会企画幹事・吉川史郎)

分科会からのお知らせ

熱物質流体工学分科会

本分科会では化学工学会第41回秋季大会に

おきまして「S-18 プロセス強化を目指したダイナミックな反応と移動現象促進」と題したシンポジウムを、反応部会およびシステム・情報・シミュレーション部会と共同企画しました。「プロセス強化」はご存じのようにこれからの化学工学に必須な研究対象であり、熱物質流体工学分科会として、強く推進させていただいている分野です。奮ってご参加いただきますようお願い申し上げます。

さらに、部会横断型のシンポジウムとして「S-42 粒子流体プロセスの横断的解析と設計」の企画に、基礎研究を主体とする本分科会として積極的に参画させていただいております。本シンポジウムは動画を用いた現象解明について広く議論するものです。4件の展望講演を本分科会で企画させていただきましたので、是非ご参加いただければと存じます。

また広島大学で行われます秋季大会の前日9月15日(火)に、広島駅近くの広島ガーデンパレスにおきまして恒例の「熱物質流体工学セミナー」の開催を企画しております。講師として当分科会から東京工業大学の加藤之貴先生、広島大学の松村幸彦先生にご講演を依頼させていただいております。また、粒子流体プロセス部会との共催であり、部会からは岡山理科大学の桑木賢也先生にお話をさせていただくこととなっております。また、エネルギー部会とも共催となり、広く意見交換をしていただけるものと存じます。詳細につきましては決まり次第分科会の皆様、また粒子流体プロセス部会の皆様にお知らせいたしますので、是非ご予定にいられていただければと存じます。

なお、次年度には国際学会として International Workshop on Process Intensification 2010 が九州にて開催されます。次年度早々には講演申し込みとなりますので、ご予定にいられていただければと存じます。

最後になりましたが、本年度も熱物質流体工学分科会行事に積極的にご参加いただきますようお願い申し上げます。

(分科会代表・鈴木洋)

ミキシング技術分科会

ミキシング技術分科会は、学から産業界まで、ミキシング技術を支える研究者を網羅しつつ精力的な展開をはかっています。昨年、若手技術者養成を目的とした隔年開催の講習会「最新ミキシング技術の基礎と応用」では、これまでに最高の140名を超える参加者が集まり、あらためてミキシング技術の重要性と関心の高さを実感し、本年度も種々の企画を準備しております。

分科会では、会員間の情報交換を図るための一環として、Mixing Technology Now を刊行しております。これには、ミキシングに関する国内の研究が全て記載され、分科会主催の講演会の講演内容、国際専門誌へ投稿されたミキシング関連文献もリストアップされ、海外での研究動向も知ることができます。新情報を知るには便利で、本年は14巻目を準備中です。

毎年恒例の3地区(東日本・関西・東海、九州地区)の特色を生かしたミキシング技術サロンのうち、東日本のミキシング技術サロンは5月30日に米沢で開催済みで、今後10月(九州)、11月(大阪)の開催予定です。

ミキシング技術分科会夏期セミナー「先端材料とミキシング」を8月6日(木)、7日(金)、大阪住友クラブ(大阪市西区)にて開催します。申込み締切りは7月27日ですので、皆様の参加をお待ちしております。また化学工学秋季大会のシンポジウムでは、基礎と新しい展開を織り交ぜた「ミキシング - 基礎から物づくりまで -」を開催する予定です。詳細情報は分科会ホームページ <http://www.scej.net/mixing/> をご参照下さい。

(分科会代表・今野幹男)

気泡・液滴・微粒子分散工学分科会

2009年3月の部会総会で「気泡塔分科会」から「気泡・液滴・微粒子分散工学分科会」への正式な改組が行われました。気泡塔分科会は遡れば気泡塔・懸濁気泡塔の装置設計特別分科会、気泡塔研究会とその歴史は古く、多数の成果をあげてきました。しかしながら新しい研究課題の登場や学際領域の融合により、従来の“気泡塔”という装置名称を冠した分科会から、不均一分散系を対象した分科会への移行の要望が分科会内外より高まりました。そこで本分科会では1年をかけて検討を行い、“気泡”のキーワードを残したうえで“液滴”や“微粒子”を加えた分散工学に関する研究者の討論と情報交換の場を提供することにしました。ぜひご関心をお持ちの皆様には参画をお願いいたたく存じます。

2009年度は主な分科会企画として以下が計画されています。

シンポジウム・講演会・見学会

(1)化学工学会第41回秋季大会 S-38 シンポジウム「気泡、液滴、微粒子分散工学の融合と新展開」

開催日時:2009年9月16~17日

場所:広島大学東広島キャンパスE会場

招待講演:奈良高専河越幹男氏

気泡塔のバイオリクターへの応用と有用きのこ菌糸の液体培養

展望講演:慶應大学寺坂宏一氏

マイクロ気泡・マイクロ液滴・マイクロ粒子の生成と応用

オーガナイザー:寺坂(慶大)・太田(室工大)・安田(名大)・岩田(名工大)

(2)第1回気液固分散工学サロン

開催日時:2009年9月16日17:15~

場所:広島大学東広島キャンパスE会場

講師:九州大学 松隈洋介氏

題目:格子ボルツマン法を用いた不織布や充填層内の流れの数値解析

懇親会:18:30-20:00 西2 福利会館生協食堂

参加費:講演会無料、懇親会費:正会員 3000円、学生会員 2000円

申込方法:参加ご希望の方は、(1)氏名、(2)勤務先・所属、(3)連絡先、(4)懇親会出席の有無を明記の上、9/9までに下記まで申し込みください。

問合先:名古屋大学 安田啓司

(yasuda@nuce.nagoya-u.ac.jp)

(3)気液固分散工学見学会

共催:化学工学会関東支部、協賛:新潟技術懇話会

日時:2009年9月25日

場所:新潟 GTL 実証プラント

http://www.nippon-gtl.or.jp/pdf/gtl_09_apr_16.pdf

申込方法:参加ご希望の方は、下記までにお問い合わせください。

問合先:慶應義塾大学寺坂宏一

(terasaka@applc.keio.ac.jp)

(4)第1回マイクロバブル・ナノバブル技術講習会

主催:日本混相流学会リエゾン専門委員会

共催:化学工学会関東支部

日時:2009年9月4日

場所:慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎

申し込みおよび詳細は下記を参照ください。

<http://www.scej-kt.org/gyouji/2009/090904nbnb.htm>

出版物

(1)気泡塔ハンドブック(仮称)

将来気泡塔関係の技術を整理し、化学工学会関東支部発行「最近の化学工学シリーズ」から発刊を目指します。

(2)気泡塔研究史(仮称)

これまでの長きにわたる「気泡塔」の装置設計に関する研究会・分科会の歴史を総括し、書籍

にして分科会会員に頒布を計画しています。
(分科会代表・寺坂宏一)

流動層分科会

第 41 回秋季大会において、「S-39 革新的流動層プロセスの開発に向けて」(オーガナイザー 清水 忠明(新潟大学)・桑木 賢也(岡山理科大学)と題しましたシンポジウムを開催いたします。また、第 15 回流動化・粒子プロセッシングシンポジウム(FB15)を下記のとおり開催いたします。皆様のご参加をお待ち申し上げております。さらに、FB15 の直前に第 10 回日中流動層シンポジウムの開催を予定しております。まもなく皆様にご案内いたします。

第 15 回流動化・粒子プロセッシングシンポジウム

日時 2009 年 12 月 10 日(木)～11 日(金)
会場 ドルフィンホール(鹿児島ウオーターフロント「ドルフィンポート」内会議室)

講演募集内容

本シンポジウムは流動化・粒子のプロセッシングに関する技術・学術的知識の交換と討論を目的としています。討論を活発化する内容であれば研究領域は問いません。また、未発表、既発表の有無は厳格には問いません。特に企業での開発事例の紹介を歓迎します。講演は口頭発表(発表 15 分+質疑 5 分、または発表 10 分+質疑 5 分)とポスター発表の併用とする予定です。

講演申込締切 2009 年 9 月 25 日(金)

次の項目について、下記事務局まで E-mail にてお送り下さい。

- 1) 題名、著者名、著者の所属(和文)
- 2) 題名、著者名、著者の所属(英文)
- 3) 300 字程度の和文要旨または 200 ワード程度の英文要旨
- 4) 代表者連絡先(郵便番号、住所、氏名、電話、FAX、E-mail アドレス)
- 5) 希望発表形態
(口頭 15 分・口頭 10 分・ポスター:ポスター発表をお願いする場合があります)

(分科会代表・鈴木善三)

粉体プロセス分科会

広島大学で行われる化学工学会秋季大会において、本分科会では以下のシンポジウムを企画、開催いたします。

「微粒子テクノロジーの新展開～生成・機能化・計測・特性評価・ハンドリング」

本シンポジウムでは、微粒子の生成と機能化から、

計測・特性評価、そのハンドリングとプロセスの対象を広くとり、基礎から応用まで最近の研究成果をつのり、その報告と討論を行います。

(オーガナイザー: 空閑良壽、藤本敏行(室蘭工大)、松坂修二(京大)、瀬戸章文(金沢大))

ここでは、下記の 2 件の展望講演を含む 31 件の研究発表を予定しています。

- ・ナノ粒子分散装置の開発と分散性能について(寿工業)(正) 院去 貢 氏
- ・乾式及び湿式粉体プロセスにおける高精度分級の新展開(広大院工)(正) 吉田 英人 氏

分科会、部会の会員の皆様のご参加と活発な討論をいただけますようお願いいたします。

そのほか今年度の企画として、下記の計画をはじめとした共催、協賛行事を予定しています。詳細はメールや部会ホームページ等でお知らせしていきます。

- (1)「粉体基礎技術講習会・微粒子工学講演会」、化学工学会北海道支部、粉体工学会北海道談話会との共同開催、10/1(木)～2(金)、札幌市、北海道工業試験場にて。
- (2)「ナノ粒子の計測と標準粒子関連のセミナー」粉体工学会粒子径計測研究会との共催、10月下旬を予定。
- (3)粉体工業展大阪(10/21(水)～10/24(土))で分科会の活動を紹介予定。
- (4)粒子帯電制御研究会・見学会および講演会の協賛:「粉体の帯電と安全」、9/3(木) 13:00～17:00、東京都清瀬市、労働安全衛生総合研究所にて。

(分科会代表・空閑良壽)

部会ホームページ更新のお知らせ

粒子・流体プロセス部会ホームページ(<http://www2.scej.org/partluid/>)では、会員への情報提供の一環として、部会法人会員および部会個人会員が所属する公的機関に対して、お申し出に基づいてリンクを張ることにいたしました。該当する方は、部会ホームページ担当の竹田(連絡先は部会ホームページに掲載)までご連絡ください。

(HP 担当・副部長・竹田宏)

部会への入会方法

化学工学会の個人会員(正会員、学生会員)で粒子・流体プロセス部会へ入会を希望される方は、化学工学会ホームページの「入会のご案内/部会入会の申込み」

(http://www.scej.org/jp_html/info/info.htm) より、お申し込み下さい。

化学工学会の法人会員、化学工学会会員でない法人あるいは個人の方で、粒子・流体プロセス部会の賛助会員、特別個人会員になることを希望される方は、下記の粒子・流体プロセス部会事務局までご連絡下さい。

また、現在、分科会に所属されていない部会員で、入会希望の分科会がございましたら、部会事務局で受け付けますので、ご連絡下さい。

さらに、部会会員で配信メールが届かない方、あるいはメールアドレスを変更された方も事務局までお知らせください。

Phone/Fax 099-285-8361 (甲斐敬美)

099-285-8360 (中里 勉)

E-mail fpp-jim@rc.cen.kagoshima-u.ac.jp

(メールを送信される際は、上記アドレスのアットマーク(@)を半角文字に修正ください。)

(事務局・甲斐敬美)

部会ニュースレター編集後記

今回は第3回目の発行となります。今後ともこのニュースレターにご寄稿をよろしくお願いいたします。

(ニュースレター編集担当・寺坂宏一)